

こうじ 工事の げんば 現場より

旧矢筈原家住宅 保存修理事業

4月2週目

今はこんな様子だよ。

修理現場から
文化力
POWER OF CULTURE

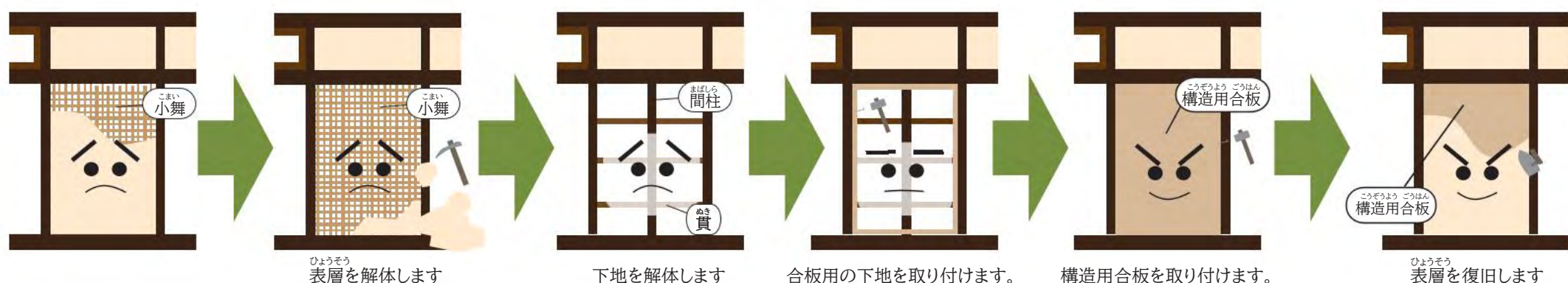


建物内部では、耐震補強のため、壁の強度を高める工事が進められています。既存の壁を解体し、その内部を頑丈な構造用合板に置き換える作業です。

壁内にある貫や柱は寸法が一樣でないため、平滑な構造用合板を取り付けるには、それぞれの形状に合わせた下地の加工が必要になります。さらに、場所によっては部分的に解体していない箇所もあり、既存材を避けながら材料を差し込むなど、まるで知恵の環を解くように組み込んでいきます。

最終的には表面を元の状態に復旧するため、これらの作業は表から見えませんが、まさに縁の下の力持ちといえる「匠の技」が活かされています。

耐震補強工事の流れ（例：左官壁での施工手順）



解体前



板壁解体



構造用合板のための下地材設置



古材の貫は幅や厚みが不均一なため、取り付けている下地材もその場所に合わせて一つ一つ丁寧に加工しています。またここでは階段手摺の柱を解体していないため、その部材を避けて下地材を入れ込みました。



過去のお知らせはこちら